

2016年3月期 決算説明会

**フジテック株式会社
2016年5月26日(木)**

東急プラザ銀座(東京)

1. 2016年3月期 決算報告
2. 2017年3月期 通期業績予想
3. 新中期経営計画の取り組み

1. 2016年3月期 決算報告

4期連続で過去最高を更新

(単位:百万円)

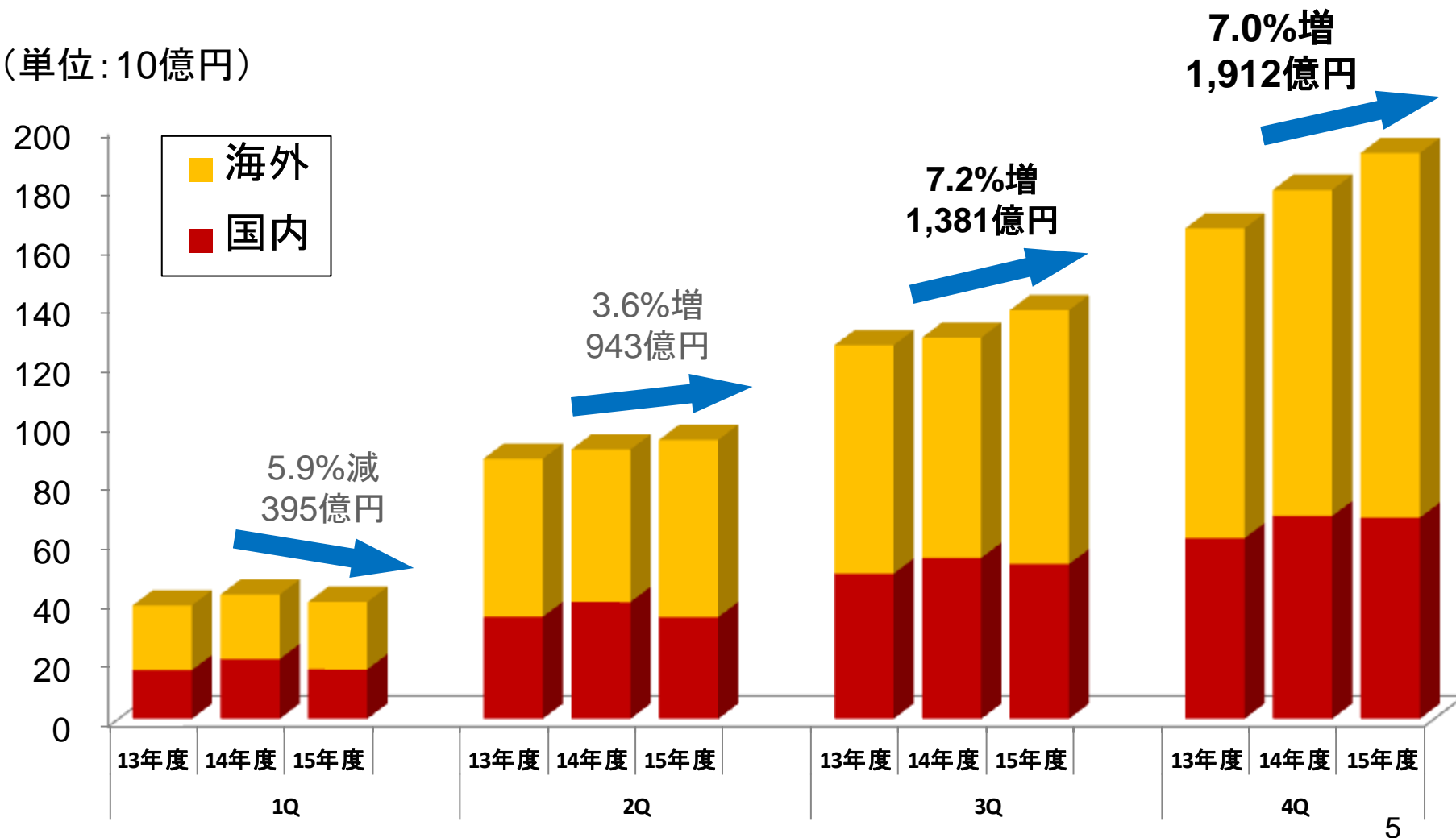
	2016/3 (通期)	構成比 (利益率)	2015/3 (通期)	構成比 (利益率)	増減%	期初計画
受注高	191,282	100.0%	178,823	100.0%	+7.0%	—
国内	68,003	35.6%	68,520	38.3%	△0.8%	—
海外	123,279	64.4%	110,303	61.7%	+11.8%	—
売上高	177,128	100.0%	165,297	100.0%	+7.2%	175,000
国内	60,381	34.1%	61,508	37.2%	△1.8%	—
海外	116,747	65.9%	103,789	62.8%	+12.5%	—
営業利益	14,449	8.2%	13,488	8.2%	+7.1%	15,000
経常利益	15,162	8.6%	14,826	9.0%	+2.3%	16,000
親会社株主に帰属 する当期純利益	8,807	5.0%	8,356	5.1%	+5.4%	9,000
EPS	109.36円	—	90.84円	—	+18.52円	111.81円

平均為替レート : 16/3期 1米ドル121円、15/3期 1米ドル105円

1-2. 四半期累計受注高の推移

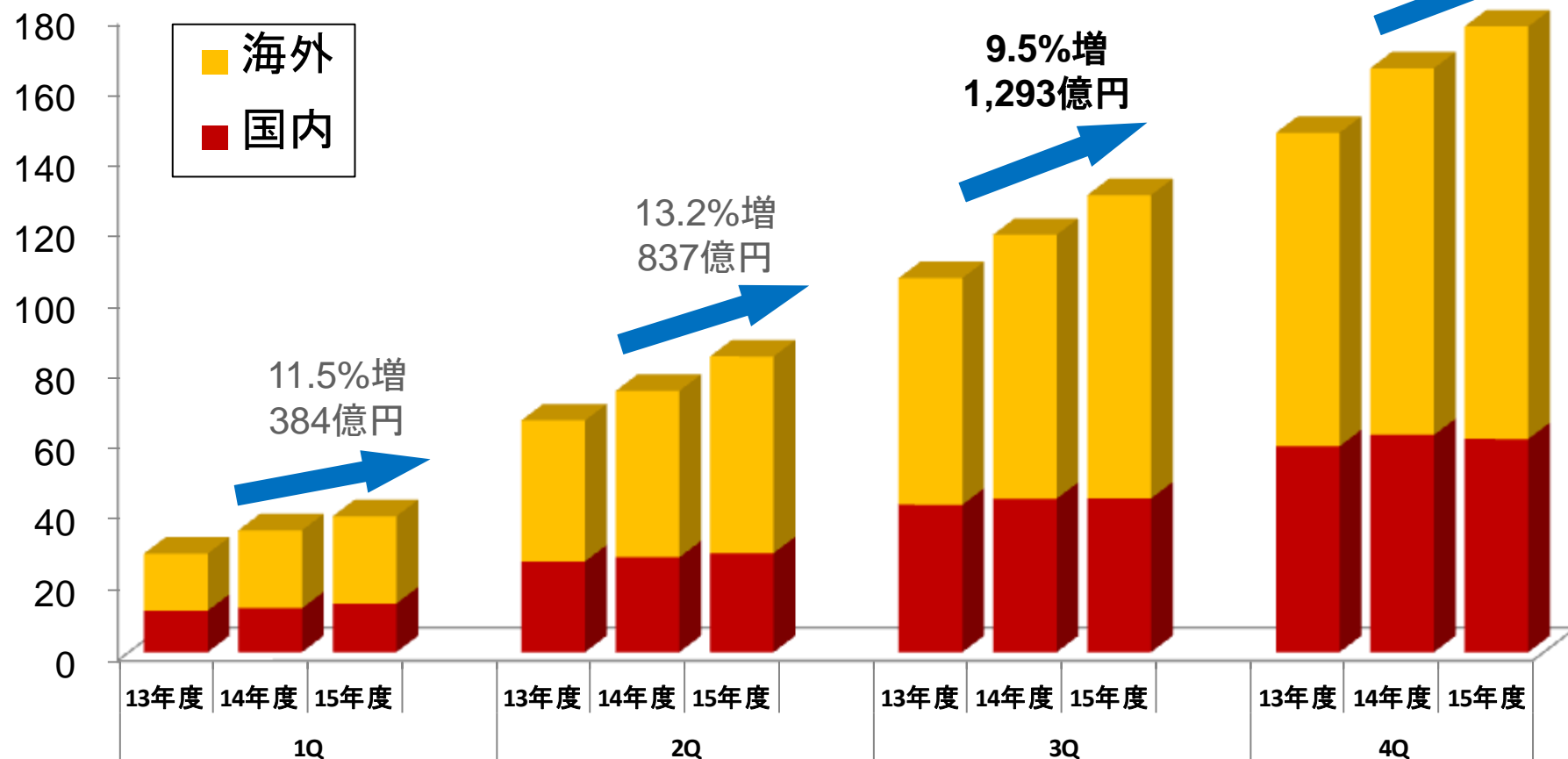
北米が増加

(単位:10億円)



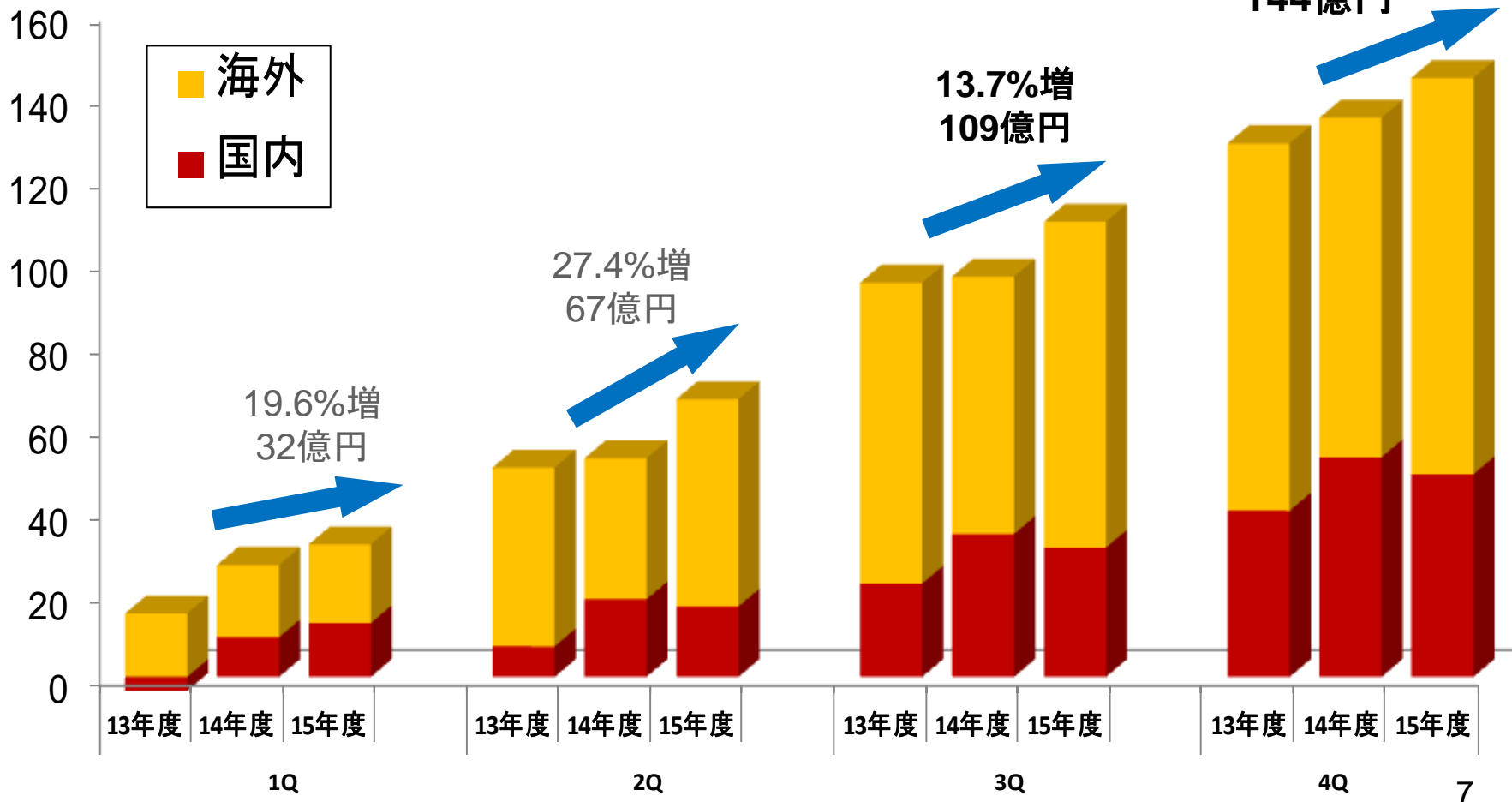
北米、南アジアで増収

(単位:10億円)



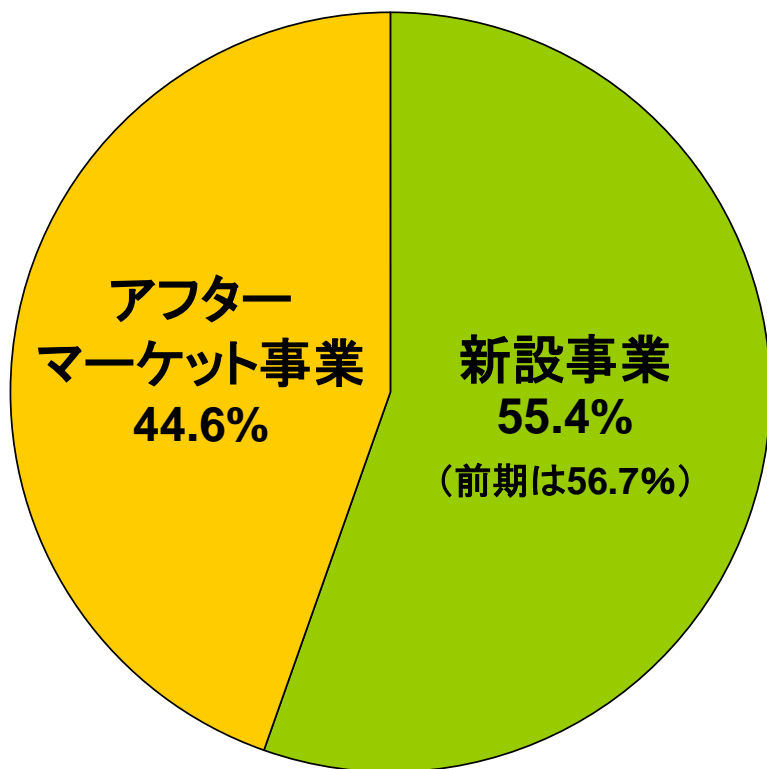
北米で損益が改善

(単位:億円)

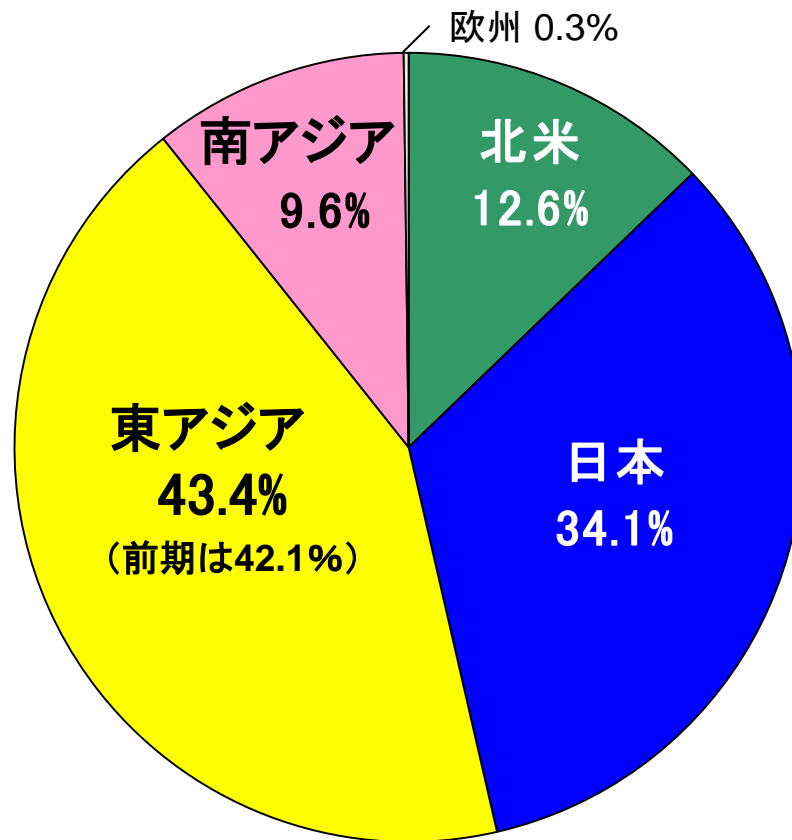


東アジアがさらに拡大

事業別売上高



セグメント別売上高



1-6. セグメント別売上高・営業利益

東アジア、北米、南アジアが増収増益

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2016/3 (通期)	2015/3 (通期)	増減%	2016/3 (通期)	2015/3 (通期)	増減額
日 本	65,001	65,514	△0.8%	5,199	5,149	+50
東アジア	84,606	76,240	+11.0%	7,500	7,328	+172
北 米	22,360	17,735	+26.1%	137	△582	+719
南アジア	17,075	15,499	+10.2%	1,626	1,558	+68
欧 州	508	601	△15.5%	△43	△1	△41
小 計	189,552	175,591	+8.0%	14,421	13,453	+968
調 整 額	△12,423	△10,294	—	28	35	△6
合 計	177,128	165,297	+7.2%	14,449	13,488	+961

平均為替レート：16/3期 1米ドル121円、15/3期 1米ドル105円

売上高、利益とも前期並み

新設事業

- ・建設費上昇から市場に停滞感
- ・人件費上昇は原価低減で吸収

アフター マーケット 事業

- ・売上高は保守が牽引し堅調に推移
- ・モダニゼーションは需要一巡で減少



東急プラザ銀座（東京）



エキスポシティ(大阪)

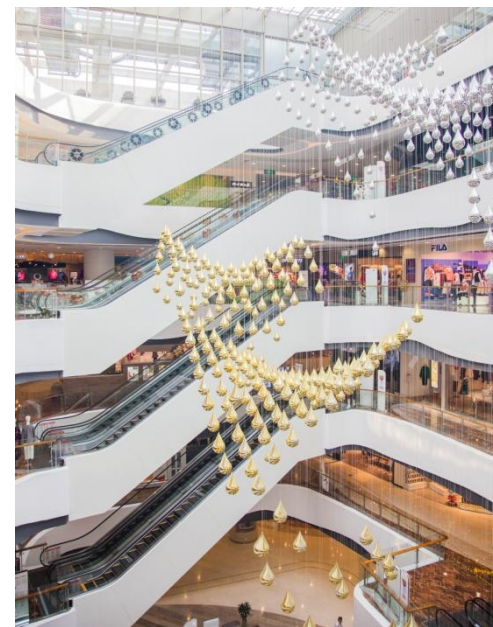
円安効果もあり増収増益

中国

- ・市場縮小で競争激化
- ・エレベータは新機種投入で増収確保
- ・価格競争の影響で利益率低下

香港
台湾
韓国

- ・堅調に推移



達碼格利国際購物中心(中国)



ロッテモール恩平ニュータウン店
(韓国)

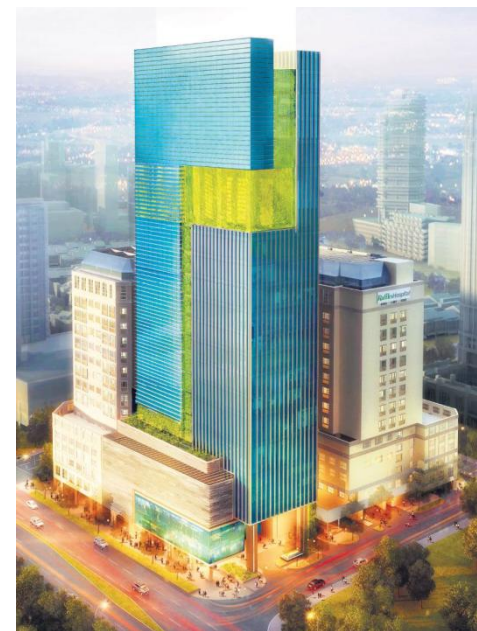
実質増収。外部環境の悪化で利益率低下

シンガ ポール

- ・アフターマーケット事業が堅調
- ・新設事業が低調で減収
- ・メンテナンスが順調で利益確保

アセアン 地域 インド

- ・通貨安によりコストが上昇
- ・インドは増収で損益改善



ラッフルズ・ホスピタル
(シンガポール)



ディ・サラ・セントラル
(マレーシア)

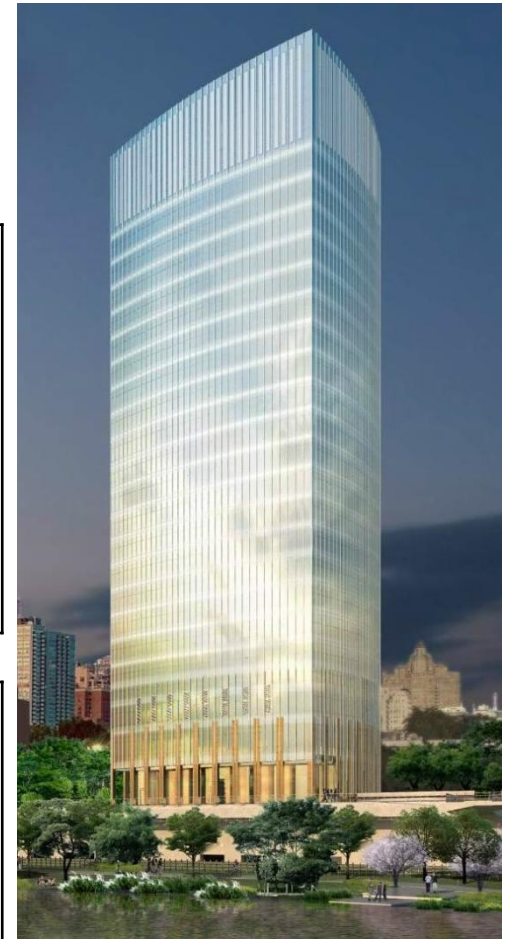
北米は増収で損益が改善

北米

- ・新設、アフターマーケット事業ともに増収
- ・新設事業、モダニゼーションの採算が改善
- ・保守の利益率が向上

欧州

- ・低調に推移



CHOPスクールキル・
アベニュー・プロジェクト
(アメリカ)

1-11. 連結決算 B/S

(単位：百万円)

	2016/3末	2015/3末	増減額	備考
流動資産	123,304	132,134	△8,829	
現金及び預金	43,698	51,674	△7,975	日本・東アジアの減少
受取手形及び売掛金	52,502	53,184	△682	
棚卸資産	21,075	20,554	+521	
その他	6,028	6,721	△693	
固定資産	48,567	47,722	+845	
有形固定資産	33,828	32,885	+942	設備投資 +4,138 減価償却費 △2,513 為替ほか △683
無形固定資産	4,063	4,311	△248	
投資その他の資産	10,674	10,524	+150	
総資産	171,872	179,856	△7,984	
流動負債	66,981	71,406	△4,425	電子記録債務 △1,311 前受金 △1,948
固定負債	4,484	3,829	+654	退職給付に係る負債 +1,893 繰延税金負債 △796
純資産	100,406	104,620	△4,214	利益剰余金 +6,583 自己株式 △7,531 為替換算調整勘定 △1,823 退職給付に係る調整累計額 △1,367
自己資本比率	51.6%	51.9%	—	
B P S	1,102.66円	1,074.82円	+27.84円	

フリーキャッシュフローが減少

(単位：百万円)

	2016/3	2015/3	増減額
現金及び現金同等物期首残高	30,602	20,903	+9,699
営業活動キャッシュフロー	8,932	10,753	△1,820
投資活動キャッシュフロー	△5,319	△619	△4,700
フリーキャッシュフロー	3,612	10,134	△6,521
財務活動キャッシュフロー	△11,532	△3,225	△8,306
現金及び現金同等物期末残高	21,833	30,602	△8,768

2. 2017年3月期 通期業績予想

実質増収ながら減益の計画

2016年3月期

2017年3月期

	売上高 (億円)	営業利益 (億円、利益率)	
日 本	650	51	8.0%
東アジア	846	75	8.9%
北 米	223	1	0.6%
南アジア	170	16	9.5%
欧 州	5	△0	△8.5%
小 計	1,895	144	7.6%
調 整 額	△124	0	-
合 計	1,771	144	8.2%



	売上高 (億円)	営業利益 (億円、利益率)	
日 本	660	52	7.9%
東アジア	800	52	6.5%
北 米	210	3	1.4%
南アジア	150	14	9.3%
欧 州	5	0	-
小 計	1,825	121	6.6%
調 整 額	△125	△1	-
合 計	1,700	120	7.1%

平均為替レート: 1米ドル121円

平均為替レート: 1米ドル110円

日本:増収、利益は前期並み

(単位:百万円)

	2017/3	2016/3	増減%
売上高	66,000	65,001	+1.5%
営業利益	5,200	5,199	+0.0%
営業利益率	7.9%	8.0%	△0.1P

- ・新設事業は増収、アフターマーケット事業は横ばい
- ・原価低減を推進
- ・営業利益は前期並み

東アジア：実質増収ながら減益を予想

(単位：百万円)

	2017/3	2016/3	増減%
売上高	80,000	84,606	△5.4%
営業利益	5,200	7,500	△30.7%
営業利益率	6.5%	8.9%	△2.4P

平均為替レート：1人民元17円

- ・中国は増収を目指すが見込みだが利益率低下
- ・香港、台湾、韓国は堅調に推移する見通し

南アジア：実質増収、利益は前期並み

(単位：百万円)

	2017/3	2016/3	増減%
売上高	15,000	17,075	△12.2%
営業利益	1,400	1,626	△13.9%
営業利益率	9.3%	9.5%	△0.2P

平均為替レート：1シンガポールドル79円

- ・シンガポールは建設需要が低調に推移する見通し
- ・インドネシア、マレーシアは利益回復
- ・インドは増収。損益改善の見通し

北米：増収増益、欧州：収支均衡

(単位：百万円)

北 米	2017/3	2016/3	増減%
売 上 高	21,000	22,360	△6.1%
営 業 利 益	300	137	+118.3%
営 業 利 益 率	1.4%	+0.6%	+0.8P
欧 州	2017/3	2016/3	増減%
売 上 高	500	508	△1.6%
営 業 利 益	0	△43	—
営 業 利 益 率	—	△8.5%	—

平均為替レート：1米ドル110円、1ユーロ121円

・北米は好調な経済を背景に増収増益。利益率も改善

設備投資・減価償却費・研究開発費・配当

(単位：百万円)

	2017/3	2016/3	増減額
設備投資額	5,700	4,316	+1,384
国内	3,500	1,499	+2,001
海外	2,200	2,816	△616
減価償却費	2,900	2,748	+152
研究開発費	3,000	2,179	+821

(単位：円)

	2017/3	2016/3	増減額
配当金	30	30	—
中間	15	15	—
期末	15	15	—

3. 新中期経営計画の取り組み

No Limits!
Push Forward Together!

FUJITEC

中期経営計画 2016～2018年度

行動ビジョン

1. 市場ニーズを捉えたシェアアップ
2. 商品統一による市場競争力の強化
3. 全社調達革新とグローバル設計ネットワークの構築
4. 経営品質の向上

2019年3月期

売上高：2,000億円

営業利益：160億円

営業利益率：8.0%

2016年3月期

売上高：1,771億円

営業利益：144億円

営業利益率：8.2%

全セグメントで増収増益

2016年3月期

2019年3月期

	売上高 (億円)	営業利益 (億円、利益率)	
日 本	650	51	8.0%
東アジア	846	75	8.9%
北 米	223	1	0.6%
南アジア	170	16	9.5%
欧 州	5	△0	△8.5%
小 計	1,895	144	7.6%
調 整 額	△124	0	-
合 計	1,771	144	8.2%



	売上高 (億円)	営業利益 (億円、利益率)	
日 本	700	58	8.3%
東アジア	1,000	78	7.8%
北 米	240	7	2.9%
南アジア	200	19	9.5%
欧 州	8	0	-
小 計	2,148	162	7.5%
調 整 額	△148	△2	-
合 計	2,000	160	8.0%

平均為替レート: 1米ドル121円

平均為替レート: 1米ドル110円

1 **地域戦略**
市場ニーズを捉えたシェアアップ

2 **商品・技術戦略**
商品統一による市場競争力の強化

3 **オペレーション戦略**
全社調達革新とグローバル設計ネットワークの構築

4 **コーポレート戦略**
経営品質の向上

中国

■販売面

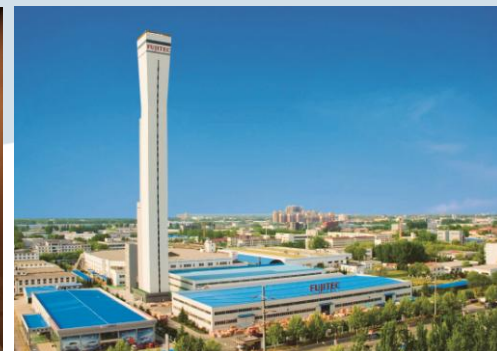
販売ネットワークとコスト競争力の強化

■生産面

標準機種をグローバルに供給



標準機種「ZEXIA」



華昇フジテック

香港、台湾、韓国

モダニゼーション事業に注力

■台湾

モダニゼーション機器をグローバルに供給

■韓国

オーダー機種をグローバルに供給

フジテック・台湾



フジテック・コリア



北米

- ・新設事業は大都市で受注活動を展開
- ・アフターマーケット事業の拡大に注力

南アジア

- ・インド、アセアン地域に経営資源を投入
- ・インドは生産能力を増強

日本

- ・新設事業は収益力とマーケットシェアの向上
- ・モダニゼーション事業に注力

コンセプト

グローバル機種による市場競争力の強化

商品戦略

- ・グローバル生産拠点間で商品を統合
(エレベータ、エスカレータ、モダニゼーション)

技術戦略

- ・商品ラインアップを支える機器の技術開発
- ・将来を見据えた研究開発の取り組み

グローバル一括購買による 調達推進



エスカレータ事業の 一体運営



上海華昇フジテック



ビッグステップ

グローバル設計 ネットワークの構築



グローバルモダニゼーション 事業の推進



コーポレートガバナンスの強化



IT活用によるインフラ強化



グローバル人材の育成強化



安全と品質への取り組み



No Limits!

Push Forward Together!

FUJITEC

中期経営計画 2016～2018年度
行動ビジョン

1. 市場ニーズを捉えたシェアアップ
2. 商品統一による市場競争力の強化
3. 全社調達革新とグローバル設計ネットワークの構築
4. 経営品質の向上

參考資料

社名	フジテック株式会社
設立	1948年2月 (1974年2月東証第一部上場)
本社	ビッグウィング 滋賀県彦根市宮田町591番地1
事業内容	エレベータ、エスカレータの研究開発・製造・販売 据付・保守
資本金	125億33百万円（発行済株式数93,767,317株）
役員	代表取締役社長 内山高一 取締役：7名（うち社外3名） 監査役：4名（うち社外2名）
従業員数	連結 9,486名（個別 2,824名）
関係会社	34社（内、連結子会社19社） （米州、東アジア、南アジア、欧州・中近東）

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。

既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2016年5月26日現在において利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

2016年5月26日

フジテック株式会社

2016年3月期 決算説明会資料

